

令和6年度 つつじが丘小学校 学校評価報告書

【A:達成 B:ほぼ達成 C:あまり達成してない D:達成していない】

領域	評価項目	自己評価 (達成状況)	学校の現状や改善に向けた方策	関係者 評価	具体的提言
学校経営・教育課程	教育目標	A	・よかった。	A	○おおね達成できていると思うが、子どもたちの「学校が楽しくない」が一定数いることが不安。 ○教育目標に対して、子どもたちも保護者からも高評価だったと思う。 ○集団生活では達成できているようだが、個人については教師しか評価できないのかも。
	教育課程・教育計画	A	・生活・総合・情報・体育など教科書のない教科の「縦のつながり」が難しい。 →全体でカリキュラムを、年度途中でできているかどうか確認、見返す時間を設ける（会議等で）。 ・生活・総合の6年間カリキュラムを考える（今年度は作成できず、各学年に任せていた）。 →今年度の学習のまとめをし、来年度のカリキュラムづくりに活かす。さらに「猪名川学」のカリキュラムと関連づける。 ・教科担任制を進めるにあたり、教科横断的な年間計画を考えることが難しい。 →4月の学期初め（ゆるやか）1日をを給食後下校にして、じっくり年間計画（カリキュラム）を考えるための日を設定する。 ・「終わりの会」をやるやらないの差があるのは・・・校時表に明記されているので、全クラスやらなければいけない。 →移動教室などですぐ下校をしているクラスもあったので、教室に帰って、1日を振り返る時間をとり、下校する。 ・「朝の会」の扱いが難しい本来は、校時表に明記しておくべき・・・だが、本校は朝学習をモジュールで計上しているの、朝の会5分、朝学10分と書くのも難しい・・・。 （モジュールは15分×3で1時間扱い） ＊朝の会、終わりの会など来年度の教務担当（時間割、校時表、教育課程）が、みんなが共通認識をし取り組みやすいように提案する。	A	○教科担任など、進めていくことに異議はないが、学級担任との連携、共有は、常に必要になってくると感じる。朝学の時間の見守りなども含め、子どもたちに寄りそってってもらいたい。 ○終わりの会を校時表で決めているのなら、全クラスでやらなければならない。上司が注意する必要がある。 ○例年と違うことの多いスタートであったかと思う。忙しい中でも全体で共有していくことで、子どもたちも困ることなく学校生活が過ごせるようにも考えられる。 ○「朝の会」「終わりの会」の取り扱いに見られるような各クラス間の違いは是正すべき。 ○年間指導計画や6年間を通してのカリキュラムの設定に、途中見直しを含め時間を作ってほしい。
	家庭・地域との連携	A	・学校での子どもたちの様子は、学級通信やHPで伝えられている。 →来年度も継続する。 ・地域人材の活用や連携については、4月年間計画を立てるときに、協働活動の時期を決めておく。 ・学校運営協議会に参加する人は校務分掌検討委員会のメンバーで、一人は固定にする。職員みんなが同じ温度間でコミスクについて考えられるように、1・2・3年から1人、4・5・6年から1人が参加（学校から4人参加）するようにする。また、会に参加した人は、職朝等で、職員に会の内容を伝える。	A	○地域連携など、もう少し進めていけたらと思う。保護者、地域が同じ意識で子どもたちを見守っていけたら・・・と思う。 ○多くの保護者や地域の方々にもっとかわってもらえることで、新しいことをスタートできるように感じる。 ○コミスクやクラブ活動で、足りない部分を地域で補うのはもちろん、「共に運営する」意識を強く持ってほしい。 ○地域人材を発掘できるような方法を検討する。
学	あい・ワクワクプラン	A	・2年生の火曜6時間のうち、専科を一コマ入れられるように 工夫してほしい。（時間割担当） →来年度作成時に考慮する。	A	○今年度からカリキュラムを新しくし、先生方も工夫して進めていけたと思うが、やはり5分の休憩では、何もできない。「難しい」「忙しい」など別からの声を耳にしたことがある。休けいの作り方、子どもたちへのフォローの仕方など。まだ改善はあると思う。 ○今年度からスタートしたこのプランは継続しながら、反省点は改善して前年度より良い方向に進んでほしい。 ○教職員の方々の評価が上々でよかった。
	学習指導	A	・児童アンケート「授業がわかりやすい」が5%上昇している。また、保護者アンケートでも「分かりやすい授業をしている」が2%上昇している。これは、研究テーマを意識した、授業力を向上するための取り組みが繋がってきていると考えられる。 →基礎学力の定着には課題が残っている。基礎学力を定着させるための取り組みや復習の時間をとる（復習プリントなど）。 ・週1時間授業が減ったことで、ゆとりを持って生活できている児童が9割、学期初めと学期末の5時間授業、教科担任制は良いと感じている児童が多い。保護者も教科担任制についてもプラスに捉えてくれている。 ・「勉強でわかりにくいところは先生にたずねている」で3割ほどたずねることができない児童がいる。 →わからないことを言える・聞きやすい雰囲気づくり。児童との関係作り。 ・保護者アンケートの「家庭学習の習慣が身についている」が6%上昇しているが、80%に留まっている。 →家庭への啓発を増やしていく。分からなくて宿題ができない児童への個別の支援も考える。 ・教職員アンケート「学習規律の定着を目指した授業を行っている」は5%上昇している。 →研究大会への参加、研修や授業参観などを行って職員の意識をより高めていく必要がある。 ・教職員アンケート「主体的・対話的に学ぶ授業を行っている」は、5%上昇している。 →研究テーマから意識した授業づくりができています。主体的・対話的な授業づくりのための教室環境整備や授業の流れなどの型づくりをして、学校全体で統一して取り組む。 ・「道徳教育指導計画に基づき、道徳的価値を高める授業を行っている」については、肯定的な評価は85%まで減少している。 →道徳壇が中心となり、道徳的価値を高める授業づくりについて啓発を行っていく。	A	○わかりやすい授業の反面、先生にたずねにくいということが気になる。タブレットにまかせきりになっていないか、困っている子のとりこぼしはないかなど、目立たない子への声かけなども気にしてもらいたい。 ○良くなっていることは、今後も継続してほしい。 ○3割ほど先生にたずねることができていない状況をどう解決していくのか？

学習指導・課題教育	特別活動	B	・児童会活動は「おおむねよい」であった。 →担当の先生の取り組みのおかげ。ただ、負担を減らすために各学年におろす。 ・学級活動はつつ小祭のおかげで話し合い活動はできている。 →1年ごとにリセットするのではなく、学校として学級会の流れの型を作り、学年が上がっても話し合い活動ができるようにする。 ・委員会ごとに行うことや活動時間が決まっている。児童が自発的というより、教師が用意しているものを時間内でどうしようか考えてるイメージがある。時間の削減の流れがある中で深めるために時間を増やすのは難しいのが現状。 ・クラブ活動で地域の方々が手伝ってくれるところがよかった。 ・クラブと放課後学習が同じ日で参加できなかった。同じクラブの担当に迷惑をかけてしまった。 →放課後学習に来てもらう人を決め、クラブ担当の補助を確保する。	B	○児童会など、先生方にやらされている、先生の提案をそのまま…ではなく、どういう意図があるのか、何につながっているのかなど、どういう風に考えていけばいいか…先生方はサポートをしていただきたい。 ○クラブ活動だが、児童がやりたくて来ているのか？数人ぐらいの児童は、真剣にしていない。 ○改善することがまだあるようなので、大変ですが、難しかったところを中心に話し合ってほしい。 ○クラブ活動で、ふざける児童への対応に、私と教師では違いがあるので、「すり合わせ」が必要。 ○児童がもう少し主体的な取組ができるような工夫をしてほしい。
	課題教育 (人権・特別支援・安全防災・キャリア・福祉)	A	・人権学習は、年間を通しての取り組みと人権参観での保護者への啓発もあり、おおむねできている評価が多かった。 ・キャリア教育では、5年生がゲストを招き、いろいろな職業の話聞いていることがよかった。低学年では、キャリアパスポートを書くだけになっていることがある。 ＊キャリアパスポート…文部科学省が作成している活動記録。中学校、高校へ引き継いでいく。 キャリアノート…兵庫県教育委員会が作成している活動記録。 →例えば、低学年は生活科で家庭の仕事を考える。中学年では、仕事や仕事内容を調べる。高学年では、働く人にインタビューや話を聞く。仕事を見せてもらうなどキャリア教育で大まかな流れをつくる必要がある。 ＊4月提案のキャリア教育の年間計画に基づいて、学習に取り組む。キャリア教育は、クラスの係や委員会活動など、自分ができる「仕事」もキャリア教育なので、広くキャリア教育を見ていく。 ・人権の実践レポートに関しては、昨年度の研修が多くて減らしたが、他のレポートを見ると勉強になるので、来年度は続けてもいいかも(人権の反省、まとめの時間に検討)。	A	○キャリア教育に関しては、力を入れていることもあり、仕事、い学年との交流などよい取り組みだと思う。命の教育・指導など、今の時代見えにくいことも多いが、もう少しわかりやすく、現実味があることで、指導をしてはどうか…と考える。 ○キャリア教育・人権実践レポートは今後も続けてほしい。 ○キャリア教育について、新しく改善していく計画は、ぜひ今後継続していったほしいと思う。
生活指導	生活指導	B	・年度初めの提案に基づき、統一した指導が必要である。学級や担任の個性は大切にしつつも、子どもたちが不公平感や進級時の戸惑いを感じずに6年間を過ごせるようにしたい。 →○学年の共通理解だけでなく、全体の共通理解として年度初めの提案事項は必ず守るようにする。提案内容から外れたクラス独自のルールは教師側、子ども側両方の混乱を招く。何かあったときは、必ず管理職や担当に相談し、必要に応じて全職員と共通理解を図る。 ・いじめ対策委員会での、いじめ認知の線引きが難しい。 →文部科学省のいじめの定義に沿って進める。被害者を最大限守ることが大事。 ・細かな情報共有が行われており、学校全体で迅速な対応ができていると思う。また、生活指導が必要な時に先生方が迅速に動いてくださるので早い解決ができている。 →生指案件によって必要な関係者には情報共有を必ず行うようにする。引き続き全体で情報共有をするとともに、第一段階で情報共有が必要な職員は必ず生指の話し合いに参加するようにする。 ・児童自ら生活のルール(時間やあいさつ、掃除等)を守れるように日常的に指導している(14%はできていない)。 →教師自ら手本となるように、統一した指導を行う(教師が率先してしあいさつを行う、掃除のルールを徹底し、自らも掃除を積極的に行う、自らも時間を守るなど)。	B	○命の大切さ、心の大切さなど、教科書にあるようなことではなく、もっと身近な例など、小さなことがきっかけなど、わかりやすく自分事として考えられるよう進めていてもらいたい。 ○子どもたちだけにあいさつを継続させるのではなく、保護者も先生もすべてが行うことで、自然にできてくるように思える。 ○ある問題を起こした児童に関する取組の具体的な経緯を、学校運営協議会で説明してほしい。 ○いじめの認知は難しいと思うが、情報共有と観る聴く力を発揮し、子どもを尊重しながら対応してほしい。
組織・教育環境	教職員・勤務環境	A	・昨年度の反省を踏まえて、今年度の校務分掌決定についてはポイント制で仕事量等の調整ができた。また、職員会議の提案データ締め切り、急な部会の開催をやめるなど、業務改善につながる対策ができていた。 →来年度も継続実施していくようにする。 ・定時を過ぎても委員会・部会の実施を改めるべきではないか。 →SSWとの連絡を密にして、早めから金曜日の確保に動いて、金曜日開催を目指す。また、会の流れを事前に考えておく(議題についての時間配分を考えておくなど)。	A	○勤務環境など、いい方向に進んでいると思う。縦のつながり、横のつながり、SSWとの連携など、必要なところは、しっかり密にしていきたい。 ○できれば、委員会、部会の実施等時間内で、事前に会議等の内容を流し考える。参加者の中で、タイムを計る人を確保する。 ○次年度も継続していったほしい。
	教育環境整備	A	・体育館の倉庫がすぐに散らかっている。 →全員が「使ったものは元の位置に戻す!」という当たり前のことを徹底していくことはもちろんのことだが、そもそもの物の量に対しての倉庫面積が足りていない(一番奥の倉庫は三角形になっており使いづらい)。 →体育で使わないものはどこかに撤収すること。 →そもそも手前の倉庫の部分を学校が使うことはできないのかという疑問もある。 ＊体育館は、学校のものであるので、倉庫の使用については社会体育の団体と相談する(倉庫の使い方については、プランを提示してみるなど)。 ・手洗い場とトイレをきれいにしてほしい。手洗い場の床の汚れが気になる。 →週一回濡れたモップで拭くなどすると少しきれいになるが、働き方改革とは相反するものになるのではないかと(フロアの担任で持ち回りにするなど)。 ＊施設改善については、委員会に言い続ける。 ・清掃時間短縮により、十分な清掃指導を行うことができない。 →10分清掃を継続するにあたり、今年度の清掃状況を確認するアンケートを実施し、分担場所の見直しや清掃方法について再検討していく(例:ワークスペースをモップで清掃する、清掃場所によっては、曜日ごとに軽重をつけるなど)。	B	○清掃の時間ややり方などの見直しはすぐ必要だと思う。わかりやすく、短時間で集中できる環境、もっていき方など工夫も必要かと思う。 ○倉庫や清掃の課題は、積極的に地域に話し合いや協力を求める発信をするべき。 ○清掃の軽重や日毎の役割等、見直す点が多く、検討していく必要があると考える。 ○清掃について、学校使用の社会体育団体などに、年数回の清掃協力を求める。